



岩手県教育研究所連盟事務局
 岩手県立総合教育センター
 〒025-0395 花巻市北湯口2-82-1
 平成29年1月4日発行 第17号
<http://www1.iwate-ed.jp/kenkyouren/>



岩手の教育専門機関として

岩手県教育研究所連盟 会長 高橋 勝

(岩手県立総合教育センター所長)

あけましておめでとうございます。

昭和33年に発足した岩手県教育研究所連盟も、今年で発足60年目を迎えます。当連盟では県内各地の教育研究機関が連携を密にし、教育に関する調査・研究を充実させ、本県教育の推進、向上に寄与することを目的として活動して参りました。

今年度は5月に定期総会、協議会、9月に研修会がおこなわれました。研修会においては、東京大学大学院教育学部研究科教授の市川伸一先生をお招きし、「アクティブ・ラーニングと『教えて考えさせる授業』～意味理解と学び合いを通じた深い習得」というテーマでご講演いただき、次期学習指導要領に向けた国の動向や、具体的実践のあり方についてご教授いただきました。

来る2月9日、10日には岩手県教育研究発表会が行われます。今年度も盛岡、矢巾、雫石、花巻、北上、奥州、遠野、宮古、二戸の9つの教育研究所から11本の発表をいただく予定です。各所の研究成果の発表が、本県の教育に大きな役割を果たすものと期待しております。また、加盟機関の皆様のご参加をお待ちしております。

「本格復興完遂年」と位置づけられた今年度も残すところあとわずかです。岩手の復興を支え、次代を担う子どもたちを健やかに育てていくことは県民全体の願いです。こうした中で教育の専門機関としての当連盟の役割はとても重要です。これからは加盟機関の皆様との情報交換、連携を図りながら、岩手の教育のために尽力して参りたいと存じますので、よろしく願いいたします。

■平成28年度定期総会の報告■

平成28年5月13日(金)、総合教育センターにて、平成28年度岩手県教育研究所連盟定期総会が開催されました。

総会では、昨年度の事業報告並びに決算報告が行われ、今年度の役員案、所員研修会、岩手県教育研究発表会等の事業、予算案が承認されました。

承認いただいた平成28年度の役員は右のとおりです。

会長	高橋 勝	総合教育センター所長
理事	大西 洋悦	盛岡市教育研究所長
	沼田 弘二	花巻市教育研究所長
	市村 章	宮古市教育研究所長
	福土 幸雄	総合教育センター研修部長
監事	侘美 淳	紫波町教育研究所長
	村松 康志	矢巾町教育研究所長

事務局	総合教育センター企画担当
	奥田 昌夫 主任研修指導主事
	三田 正巳 主任研修指導主事
	坂本 大 主任研修指導主事
	佐々木 淳 研修指導主事
	後澤 大世 研修指導主事
	菅原 真奈美 主査

■ 平成28年度研究協議会 ■

今年度の研究協議会では、全体会Ⅰで総合教育センターの今年度の取組の重点について、各加盟機関にお知らせしました。特設分科会では、各研究所から事前にアンケートをとり、それをもとに3つの分科会を構成し、それぞれのテーマにかかわって協議しました。全体会Ⅱでは各教育研究所の活動報告及び情報交換を行いました。

【全体会Ⅰ：総合教育センターの取り組みについて】

■ 教育センターの研究についての概要説明

主任研修指導主事 鈴木 徹

■ 理科教育業務について（観察実験教室等）

主任研修指導主事 村上 弘

■ 情報教育業務について（情報モラル教材等）

主任研修指導主事 菅原 一志

■ 支援相談業務について（教育相談等）

主任研修指導主事 森 和佳子

■ 岩手県教育研究発表大会について

主任研修指導主事 三田 正巳

【特設分科会】

第1分科会 「授業力向上・学力向上について」

第1分科会では、授業力向上・学力向上について協議が行われました。

学習指導要領改訂に向けた国の動向や諸調査の分析と活用について情報交換が行われました。また、研究員の実践をどのようにして校内、市町村内に広げていくかが話題となりました。



第2分科会 「不登校・適応指導教室について」

第2分科会では、不登校対策としての適応指導教室の運営を中心に情報交換が行われました。

適応指導教室の運営体制やカリキュラムだけでなく、教育相談員と指導主事、SC、SSWとの連携、所属校との連絡、相談の方法について事例が紹介されました。

また、外部機関との連携・協働の在り方等についての課題が出され、意見が交わされました。



第3分科会 「異校種間連携（幼保小中高）について」

第3分科会では、異校種間の連携について情報交換が行われました。

これまでも行われてきた学力向上をねらいとした小中連携の取組や、就学指導に係わる幼小連携だけでなく、人材育成の観点から地域一丸となって行われている異校種間連携の実践について報告があり、その中での教育研究所の役割について意見交換が行われました。



■ 平成28年度 岩手県教育研究所連盟研修会 ■

9月20日（火）に、岩手県立生涯学習センターを会場に教育研究所連盟の研修会が行われました。講師に東京大学大学院教育学部研究科教授の市川伸一先生をお招きし、「アクティブ・ラーニングと『教えて考えさせる授業』～意味理解と学び合いを通した深い習得」というテーマでご講演いただきました。

研究所連盟の皆様だけでなく、県内各地から152名の先生方に参加いただき、次期学習指導要領改訂に向けた授業づくりのポイントや、指導方法について具体的な実践例を通して学ぶことができた実りある研修会となりました。

講演の冒頭では、中教審教育課程特別部会「論点整理（2015.8）」と「審議のまとめ（2016.9）」を基に「アクティブ・ラーニング」についての解説をいただきました。この中では主体的・対話的で深い学びというアクティブ・ラーニングの視点を通して、深い理解、資質・能力の育成、動機付けの向上が大切であるとのことでした。

市川先生が提案する「教えて考えさせる授業」では、旧タイプの「詰め込み」、「教え込み」の授業や、新タイプの自力解決、協働解決が授業の大半をしめる授業のいずれにも警鐘を鳴らすものであり、中教審答申（2008）や中教審教育課程企画特別部会（2015）の中でも取り上げられています。

「教えて考えさせる授業」は、①教師の説明→②理解確認→③理解深化→④自己評価という流れで構築され、学習内容や段階に応じていわゆるアクティブ・ラーニングが組み込まれていきます。

授業設計では学習内容の「困難度査定」を行い、①児童生徒にとって難しい所に時間と工夫を行う。②教える場面はコンパクトにし、内容を精査し重要な点に絞る。③課題のレパートリーを広くし、理解深化課題を工夫することが授業づくりのポイントであるとのことでした。

また、児童生徒の学び方として、①知識の関連づけを大切にし、断片的な知識や解法の機械的暗記からの脱却（意味理解）。

②間違いを生かし、失敗は自分の学習改善のための貴重な情報源（失敗活用）。③自分の理解状況や学習方法を見つめる（メタ認知）。これら3点を大切にしたいとのことでした。

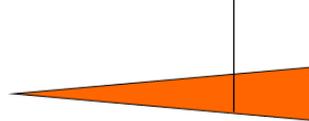
中教審答申も出され、次期学習指導要領の方向性も見えてきました。主体的・対話的で深い学びについて、具体的な実践を交えての講演で、参会者にとって大変有意義な時間となりました。



実践例【てこのつりあい】

- ① 教師からの説明
 - ・てこのつりあいのルール
 - ・「重さ×視点からの距離」が視点の左右で等しい。
- ② 理解確認
 - ・計算問題、てこ実験器で確認
- ③ 理解深化課題

エンジンがつりあって水平になったとき、支点で切るとどちらが重いでしょう？



■ 平成28年度（第60回）岩手県教育研究発表会 ■

今年度も平成29年2月9日（木）、10日（金）の2日間の日程で岩手県教育発表会が開催されます。今年度から「確かな学び、豊かな学びをつなぐ」をテーマに設定し、講演、パネルディスカッション、各分科会で運営いたします。全体会、開催分科会の予定は次の通りです。ぜひご参加ください。

2月9日（木）

午前	花巻温泉					
	全体会	講演会 演題 「学びを深めるアクティブ・ラーニング」			総合教育センター	生涯学習推進センター
		講師 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 松下佳代				
パネルディスカッション 「アクティブ・ラーニングの実際」						
午後	花巻温泉			総合教育センター	生涯学習推進センター	
	特設分科会1 確かな学力（知）	特設分科会2 豊かな心（徳）	特設分科会3 健やかな体（体）			幼児教育・ 幼小接続

2月10日（金）

午前	花巻温泉	総合教育センター 生涯学習推進センター			
	国語 算数／数学 特別支援教育	理科 道徳 キャリア教育 情報教育 外国語活動／外国語 いきる・かかわる・そなえる			
午後	花巻温泉	総合教育センター 生涯学習推進センター			
	国語 算数／数学 特別支援教育	理科 体育／保健体育 図画工作／美術 家庭／技術・家庭 音楽 社会／地理歴史・公民 総合的な学習の時間／小規模・複式 教育相談 外国語活動／外国語 いきる・かかわる・そなえる			

※体育館で学校公開ポスターの掲示が行われます。

総合教育センターをご活用ください

総合教育センターでは、要請研修、随時研修、どうぶ研修など様々なニーズに対応しています。詳細については各担当までお問い合わせください。

■ 企画担当 0198-27-2833

教育図書・資料の収集・提供、復興教育・学校安全に関する内容

■ 教科領域教育担当 0198-27-2735

幼児教育から小学校・中学校・高等学校の教科・領域等の指導に関する内容

■ 理科教育担当 0198-27-2742

小学校・中学校・高等学校の理科の指導に関する内容

■ 情報・産業教育担当 0198-27-2254

情報教育、視聴覚教育、技術・家庭科、高校専門教育に関する内容

■ 教育支援相談担当 0198-27-2821

幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における個別又は集団の教育支援に関する内容

センターWeb ページでは、教育研究、学習指導案、研修講座関連資料等各種教育情報を提供していますので、こちらもご覧ください。